

記録表 発行日	2019年9月5日	検 印
注 番	U -	米 田

高所作業車 CJ受入36項目検品表


中京重機株式会社
 ☎ 465-0057 愛知県名古屋市長区陸前町1705
 サービス部 フィールドサービスグループ
 TEL : 052-701-5191 / Fax : 052-701-5193

メーカー名		長野工業	型 式	NUL070R	機 械 所 有 者	様		
製造(シリアル)番号		7NUR027	アワメーター	3576Hr	検 査 年 月 日	2019年9月4日(水)		
エンジン型式		D722	検 査 者 名	筑摩	検査実施場所	本社内 日進ヤード ()		
エンジンシリアル		YW0276	特 自 検	特自検ステッカー 有 ・ 無 / 点検日 年 月 / 点検者				
区分	No.	検 査 箇 所		検 査 内 容		検 査 方 法	評 価	備 考
エ ン ジ ン	1	本体	a. 始動/停止性	かかり具合、異音、予熱栓・ヒーターの作動、ソレノイド		目視 or 操作 or 聴診	A B (C) D E	
			b. 回転の状態	アクセルの作動、回転具合			A B (C) D E	
			c. 排気の状態	排気色、排気音、吹き返し、マフラー外観の欠陥によるガス漏れなど			A B (C) D E	
			d. ブローバイ	オイル漏れ具合、ブローバイホース、フィルター			A B (C) D E	
			e. エアークリーナー	ケースの亀裂、変形、エレメントの汚れ、損傷			A (B) C D E	
			f. 過給機(ターボ)	異常振動、ガス漏れ、潤滑油漏れ			A B C D E	
			g. エンジン圧縮	エンジン内部コンプレッション圧計測		測定器を使用して 測定	A B C D E	Mpa
			h. 背圧	ブローバイ量の計測		測定器を使用して 計測	A B C D E	0.2L/min
	2	潤滑装置	油量、汚れ、白濁、油漏れ、エレメントの汚れ(滲み)、損傷		目 視	A B (C) D E	ゲージ 	
	3	燃料装置	燃料しみ漏れ、詰まり		目視 or 触診	A B (C) D E		
	4	燃料タンク	ドレンコックから水抜き実行、燃料の汚れ具合		目 視	A B (C) D E		
	5	燃料油種	(軽油) ・ 灯油 ・ A重油 ・ 茶灯油		目視 or 嗅診	A B (C) D E		
	6	冷却装置	a. クーラント	水量、濃度、汚れ (サブタンク水量: 満 ・ 中 ・ 少 ・ 無)		目視 or 触診	A (B) C D E	クーラント濃度-30℃
			b. 水漏れ	ウオタホース、ドレンバルブ、キャップ機能チェック			A (B) C D E	
			c. ラジエータ	外側コア(フィン)の目詰まり、汚れ、凹み、水漏れ			A (B) C D E	
			d. オイルクーラー	外側コア(フィン)の目詰まり、汚れ、凹み、オイル漏れ			A (B) C D E	
			e. ベルト/ウォーターポンプ	たわみ、摩耗、損傷、ガタの有無と程度			A B C (D) E	ベルト劣化
			f. 水温計	正常 (適温) 表示			良 不良	
			g. その他	ファンカバーやダクトの亀裂有無・損傷及び変形など		A B (C) D E		
	7	電気装置	オルタネータ機能、バッテリー液量、ターミナル緩み、腐食		目視 or 触診 or 電圧計	A B C (D) E	電圧 約13.1V(ボルト)	
			充電装置の確認、コンセントタップの状態		充電の実行	A B C D E	オルタネータ劣化	
			搭載バッテリー型式 ⇒ [115R31R]		目 視	A B (C) D E		
走 行 装 置	8	走行コントロール	前後発進停止、左右操舵		操 作	A B C (D) E	操舵時若干弱い	
	9	可変脚機能 [有 ・ 無]	作動状態、ガタの有無		目視 or 操作	A B C D E		
	10	起動輪 ・ 遊動輪	クラック、変形、摩耗、異音、異常発熱、取付ガタ、油漏れ		目視 or 触診 or 聴診 or 探傷剤	A B (C) D E		
	11	上部ローラー ・ 下部ローラー	クラック、変形、摩耗、異音、異常発熱、取付ガタ		目視 or 触診	A B (C) D E		
	12	履帯	(ゴム)	目視 or 触診	A B (C) D E			
			鉄 / PAD			(シュー)クラック、変形、摩耗、シューボルト・ナット取付緩み、リンク・ブッシュクラック/欠け、ヒッチ伸び、たわみ、固着		
	13	履帯調整装置	作動、調整ボルト損傷、変形、腐食、摩耗、シリンダー油漏れ		目視 or 操作 or 探傷剤	A B (C) D E		
14	走行減速機	油量、異音、異常発熱、ケースクラック、損傷、油漏れ※減速機の油量チェックは必須の事		目視 or 聴診 or 触診	A B C D E			
作 業 装 置	15	ブーム、アーム、バケット	クラック、変形、摩耗、ガタつき、取付、ピンシール損傷		目視 or 触診 or 探傷剤	A B (C) D E		
	16	シザーズ、マスト	クラック、変形、摩耗、ガタつき、取付、ピンシール損傷		目視 or 触診 or 探傷剤	A B (C) D E		
	17	バルブ関連	バケット水平バルブ、非常降下バルブ、		操作実施、油漏れ点検	A B (C) D E		
	18	旋回装置	クラック、変形、摩耗、ガタつき、取付、外止機能、損傷		目視 or 触診 or 探傷剤	A B (C) D E		
油 圧 装 置	19	作動油タンク	残油量 (適量 ・ 中 (少) ・ 無)、ゲージの汚れ		目 視	A B C (D) E		
	20	配管類(高・低圧油圧ホース・パイプ)	クラック/亀裂、劣化、損傷、ひび割れ、油漏れ、ブラケット/ボルト		目 視	A B (C) D E		
	21	コントロールバルブ	油漏れ、異音		目視 or 聴診 or 触診	A B (C) D E		
	22	油圧メインポンプ	油漏れ、異常振動、異音、異常発熱、吐出異常		目視 or 聴診 or 触診	A B (C) D E		
	23	油圧シリンダー	ブームシリンダー	自然沈下、油漏れ(しみ)、伸縮不良、サビ、傷、曲がり	目視 or 操作	A B C (D) E	オイル漏れ	
			マスト、シザーズ	自然沈下、油漏れ(しみ)、伸縮不良、サビ、傷、曲がり	目視 or 操作	A B (C) D E		
操 作	25	レバー、ペダル、スイッチ関連	全動作確認		操 作	A B (C) D E		

区分	No.	検 査 箇 所	検 査 内 容	検 査 方 法	評 価	備 考
安全装置・車体関係等	26	―座席(調整機構、座面、背もたれ)―	座席調整、ロック作動、取付ガタ、損傷、穴あき	目視 or 操作	A B C D E	
	27	―昇降設備―	亀裂、損傷、変形、取付ガタ	目 視	A B C D E	
	28	―灯火装置、警報器、ワイパー―	作動状態、取付ガタ、レンズ破損、浸水	目視 or 操作	A B C D E	
	29	計器類	作動状態、取付ガタ、レンズ破損	目視 or 操作	A B C D E	
	30	セキュリティ [有 ・ (無)]	イモビライザー、電子Key、隠しスイッチ、パスワードなど	操 作	有 無	
	31	―反射鏡、後写鏡―	汚れ、損傷、破損	目 視	A B C D E	
	32	給油脂	給油脂状態、自動給脂装置作動	目視 or 操作	A B C D E	
	33	―キャブピー、キャブ(ガラス)―	亀裂、変形、腐食、雨漏り、ドア開閉、ロック、キー作動、ガラスのガタつき、破損	目視 or 操作	A B C D E	
	34	レバー、ペダル	効き、操作、変形、損傷、はずれ	目視 or 操作	A B C D E	
	35	旋回減速機	異音、異常発熱、油量、汚れ、油漏れ、取付ガタ	目視 or 聴診 or 触診 or 操作	A B C D E	
36	旋回ベアリング	引っ掛かり、異音、ギア異音、シール損傷、油漏れ	目視 or 操作 or 聴診	A B C D E		
実機機械状態から具体的な検査結果報告(特記事項がなければ未記入で可)を記載の事						
No. 1						
No. 2						
No. 3						
No. 4						
No. 5						
No. 6	ベルト劣化					
No. 7	オルタネータ劣化、スロットル全開での数値					
No. 8	操舵時力弱し					
No. 9						
No.10						
No.11						
No.12						
No.13						
No.14						
No.15						
No.16						
No.17						
No.18						
No.19						
No.20						
No.21						
No.22						
No.23	オイル漏れ					
No.24						
No.25						
No.26						
No.27						
No.28						
No.29						
No.30						
No.31						
No.32						
No.33						
No.34						
No.35						
No.36						
備 考	1. 検査方法欄に実施した内容を○で囲み、5段階評価の中で該当する程度・状態を○で囲む。 2. 検査結果に異常があった場合には、右頁の該当番号欄へ具体的な不具合結果を記入の事。					
概要評価基準			個別評価基準(残存率による評価の場合は%を参照)			
A: 新品に近く非常に良好な状態の場合			A: 新品に近く非常に良好な状態の場合 / 100～90%			
B: 摩耗・損傷が少なく良好な状態の場合			B: 摩耗・損傷が少なく良好な状態の場合 / 90～70%			
C: 稼働時間相当の摩耗・損傷があるが、継続使用が可能な状態の場合			C: 稼働時間相当の摩耗・損傷があるが、継続使用が可能な状態の場合 / 70～40%			
D: 稼働はするが修理が必要な状態の場合			D: 稼働はするが修理が必要な状態の場合 / 40～20%			
E: 即修理をしないと稼働しない状態の場合			E: 即修理をしないと稼働しない状態の場合 / 20～0%			